

No. 22

平成20年6月発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70

静岡県総合社会福祉会館内

TEL 054-653-2311 FAX 054-653-2312

E-mail : sizurosi@vesta.ocn.ne.jp

<http://www.shizu-roshikyo.jp/>

# しづ老施協

## 巻頭言

### 新会長としての抱負

夢と希望が持てる魅力ある福祉・介護の職場を実現しよう！

静岡県老人福祉施設協議会

会長 石川三義



この度、仲亀会長の退任に伴い静岡県老人福祉施設協議会の会長に新たに就任しました石川であります。何分にも浅学菲才の身であります。が、県老施協の発展のために全力で努力していく所存でありますので、会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。なお前会長の仲亀先生には、十年という長きに亘り県老施協の責任者として強力なリーダーシップと統率力を遺憾なく發揮され、県老施協の健全な運営と発展に御尽力いただいたことに対し

て、会員一同心より感謝申し上げます。さて、今日、私たち老人福祉施設を取り巻く社会環境は、きわめて厳しいものがあります。とりわけ福祉・介護人材の不足が深刻化しており、新設施設だけでなく、既存の施設でも人材確保が困難であったり、離職者の補充が追いつかない状況が続いております。このまま介護報酬が引き下げられ、介護人材不足が継続するならば、持続可能な介護保険制度そのものが内部から崩壊する可能性が出てくるといえます。

このような状況を見て、厚生労働省は昨年八月に「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための措置に関する基本的な指針」を官報に告示しました。その指針には、介護現場の喫緊の課題である人材確保のためには、福祉・介護サービス従事者の給与をはじめとした労働環境の整備やキャリアアップの仕組みの構築などを図る方針が示されていました。

私たち県老施協としては、人材確保がきわめて困難な時代にこそ初心に戻つて、福祉・介護の仕事をもう一度問い合わせ、魅力ある・ヒューマンな・誇り高き仕事にしていく取り組みをしていかなければならぬでしょう。福祉本来の仕事と使命を考えながら、職員の給与・労働条件を考

含めた処遇改善や、キャリアアップの仕組みの構築、職員育成のためのスーパーバイジョン体制の確立、管理者・リーダー研修、施設間の共同研修・共同研究、福利厚生の機能強化、福祉・介護職の専門性と社会的地位の向上などに一体的に老施協全体で取り組みをし、魅力ある・誇りと夢が持てる福祉・介護の職場にしていくことが大切です。それが、結果的に人材確保・育成や、利用者に対する質の高い介護サービスの提供につながっていくと考えられます。

現在私たちは、介護保険制度施行時以上の多くの困難に遭遇しています。この様な時こそ、県内の老施協会員施設は、一致団結して困難に立ち向かわなければならないでしょう。

県老施協は、主に公益性の高い社会福祉法人等が経営する老人福祉施設関係の団体であります。この公益性という本質を大切にしながら、団体としての自立性・主体性を尊重し、県民の信頼と負託に応えていかなければならぬと考えます。

会員の皆様をはじめ行政機関および各種関係団体のご理解とご支援を切にお願い申し上げる次第です。

(特別養護老人ホーム  
「あしたかホーム」施設長)

## 特集 「明日の仕事を元気にする大作戦」

21世紀委員会では、介護現場で働く職員に、仕事のやりがい、楽しさを再認識し、自分の仕事に誇りと自信をもつてもらうため、これまでにない新方式の研修会として「明日の仕事を元気にする大作戦」を実施しましたので、企画及び参加者より報告してもらいました。

★ 静岡県老人福祉施設協議会  
21世紀委員会 副委員長 木下晋一

現在高齢者の医療、福祉の自己負担額は年々増加し、介護報酬の減額、軽費ケアハウスの一般財源化に伴う実質予算の減額等に加え職員の人材不足、定着率の低さ等、老人福祉施設の経営は益々困難な状況にあります。こうした中、忙しい介護現場の職員は日々の仕事に追われ、いつしか福祉を志した初心を忘れ、疲れきっているのではないか？今回、我々21世紀委員会では、そういった職員の方々が初志を取り戻し元気になる手助けをしようと「明日の仕事を元気にする大作戦」を実施しました。

研修内容は一部構成で、第一部「理想の施設を創りませんか?」では桜井の里の佐々木勝則施設長を講師としてお招きして、四人一組十九グループのワークショップ形式で行われ、予め出席者に21世紀委員会から幾つかの質問事項が送られておりました。

話し合われた理想の施設があながち  
実現不可能な夢物語ではなく、厳し  
い現実を乗り越えて理想を実現しつ  
つある村上先生のお話を拝聴して、  
夢を実現する為の励みにして頂きた  
いと思いました。

今後も、21世紀委員会では制度改  
定等によつて必要性の高い施設限  
定、役職限定の研修だけではなく、職  
員個々のスキルアップやメンタルケ  
アの重要性を鑑み幅の広い教養を身  
につける為の接客マナー研修、異業  
種講師研修等を実施して行きますの  
で、よろしくお願ひ致します。

り、それらを基にそれぞれの理想の施設について討議されました（B.S.方式で行われた上位チームには賞品を出すなど楽しく和気藹々と理想の施設について話し合われました）。

第二部ではT.B.Sの番組「情熱大陸」を観て感銘を受けた21世紀委員の熱心な推薦もあって、医療法人財団 夕張希望の杜の村上智彦理事長を講師にお願いしました。第一部で

に悩んでいる人たちがこの研修に参加して、少しでも元気になれたら……という思いで企画されました。

この研修に参加されて同じような悩みがあつた……などと同じ思いの人ほどのくらいいたでしょうか？

第一部では、新潟県の桜井の里の施設長である佐々木勝則氏が講師となり、理想の施設を創りませんか？のテーマでワークショップを実施しました。

グループワークではBS法を用いて①個々にアイデアを出す。②人のアイデアを批評しない。③多くのアイデアを出す。④人のアイデアに伸び乗することは歓迎という原則の下

こと。人に頼るのでなく、自分の努力が地域の活性化にいくと話しておられました

タイトル通り、こんな研修があつたつていいんじゃない?という言葉どおりの研修で参加者も多く楽しい雰囲気の中で終わることができ、やはり明日の仕事を元氣にする大作戦だったと思います。

企画運営したスタッフの皆様、参  
加された皆様に改めて感謝します。

れ、現実的には厳しい問題もあるとは思いますが、架空の理想の施設が出来上がりました。

☆ 特別養護老人ホーム「さやの家」  
係長・ケアワーカー 坂東豊室

出来上がった施設を見ると、今まで仕事の上とはいえた利用者の方々に我慢や精神的負担をしてもらつていることがわかり、改めて介護とは？ケアとは？ということを学ぶことができました。

☆ 特別養護老人ホーム さぎの宮寮

生活相談員 高杉威一郎

「明日の仕事を元氣にする大作戦」が開催され、各施設の若手職員が集まり、自らが考える福祉施設について語り合いました。

第Ⅰ部「理想の施設を創りませんか?」では特別養護老人ホーム「桜井の里」施設長佐々木勝則氏を迎え、グループワークで各自の理念を出し合い一つの理想の福祉を作り出しました。

私も今回の研修では、参加者と一緒にグループワークに参加させていました。

ただきました。そこでは、グループ一丸となり、自らが生活したい一番の施設を創り上げることを課題にしました。

1グループ四名程で集まり、意見をワイワイガヤガヤと出し合いました。もちろん、当日の朝、初めて出会った方とです。同グループのメンバーガが出す素晴らしい意見には驚くことばかりでした。(すべての希望を叶える施設、自らが利用したい施設等々) 次に、たくさん出た貴重な意見を、KJ法を使い理念を作り、そこでは、朝出会った人とは思えないほど、お互いの理解を深め、1つの理想を完成させることに夢中になりました。

第Ⅱ部では「夕張における医療再生への挑戦」医療法人財団「希望の杜」理事長村上智彦氏に、医療サービスが作る安心安全な町づくりを講演していただきました。

地域住民が本当に必要としているのはどのようなニーズなのかを医療現場の観点から、熱く厳しく伝えていただき一日の研修はすぐに終わりに向かえました。

今回の研修では、県内から集まつた方々と語り合うことで、私達が考える福祉像を前向きに考えることが出来ました。

現在日本の問題として、超高齢社会、少子化と様々な問題が福祉だけでも上がっています。福祉施設で働く私達が、これらの問題に不安を感じるのではなく、熱意を持ち日々行動していくけば今の理想は現実になります。

1グループ四名程で集まり、意見をお年寄りや家族は希望しているのだろう。お年寄りにいいサービスと生活だつただろう。どんなサービスをお年寄りや家族は希望しているのだろう。お年寄りにいいサービスとは、具体的にどのようなものだろうと考えました。実現する為には、どのような考え方で仕事に取り組みサービスを提供したらよいかと考えさせられました。

皆様ありがとうございました。

最後になりましたが、今回研修に参加された皆様、明日の仕事に元気が持てましたでしょうか? 山笑

う季節になり、多くの「施設笑う」が増えたことを確信しています。

実りある時間を皆様と共有できましたことで「明日の仕事を元氣にする大作戦」大成功と感じております。

☆ 特別養護老人ホーム 遠州の園

生活相談員 伊藤祐樹

「明日の仕事を元氣にする大作戦」と題して「理想の施設を創りませんか?」がテーマのワークショップに参加をしました。施設では相談員として働いていますが、普段の施設業務では学べないようなことを、グループワークを通じて学べました。

講義が始まつて「あなたは自分の施設に入所したいですか?」と先生

の最初の問い合わせに自分の施設での生活を、色々な立場からイメージしてみました。利用者の生活はどんな

生活だつただろう。どんなサービスをお年寄りや家族は希望しているの

を実現するには、職員全体でサービスのルール作りをして、現実に負けない資質向上を考える職員が増え、意識して働くことの積み重ねが、お年寄りに満足して頂けてなお、職員も働きやすい理想に近づく施設創りになると思いました。

当施設では個別ケアの実践するこ

とが課題になっています。近隣に施設も増え利用者確保が難しくなっています。その様な状況下で、利用者一人一人に満足して頂けるような施設創りを目指してきたいと思います。明日からも、お年寄りに喜んでいけるようなサービスを提供できるように仕事をしたいです。

くまとまるのだろうかと不安でした。テーマに沿つて役割を決めて話し合つていく内に、自然にコミュニケーションが始め、お互いの考え方を知ることが出来て有意義な話合いでした。

## 第4回 関東ブロック老人 福祉施設研究総会 開催要項

**メインテーマ 「介護の品格」  
サブテーマ 「高齢者の尊厳の保持と主体性ある介護を求めて~**

●主 催 関東ブロック老人福祉施設連絡協議会  
静岡県老人福祉施設協議会

●後 援 静岡県  
静岡市  
社団法人 全国老人福祉施設協議会  
社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会

●期 日 平成20年9月30日(火)～10月1日(水)

●会 場 静岡コンベンションアーツセンター「グランシップ」  
ホテルアソシア静岡  
ホテルセンチュリー静岡  
静岡県男女共同参画センター“あざれあ”

静岡県男女共同参画センター“あざれあ”

●日 程

全体会 平成20年9月30日(火)

11:30	13:00	13:50	14:10	14:50	15:10	16:40	17:00
受付	開会式典	休憩	基調講演	休憩	記念講演	次回開催県の紹介	

分科会 平成20年10月1日(水)

9:30 12:30

### 分科会

分科会 会場 静岡コンベンションアーツセンター“グランシップ”  
ホテルアソシア静岡  
ホテルセンチュリー静岡  
静岡県男女共同参画センター“あざれあ”

#### 第1分科会 <法人経営分野>

テーマ 「今、問われる 社会福祉法人の品格」

不正や偽装がはびこる現在社会。社会福祉事業者にもコンプライアンスが問われている。困難な人材確保、収入を切り詰められるなど厳しい施設経営を求められている中、社会福祉法人の方を今一度考えてみよう。

#### 第2分科会 <認知症分野>

テーマ 「認知症ケアの最前線」

認知症の人が安心して暮らせるケアのあり方とは?  
最新の知識と知恵を探りながら、職員全員で共通認識を持ちサポートするにはどのようにすればよいのだろうか。

#### 第3分科会 <個別支援分野>

テーマ 「個別支援とは?～支え合える喜びを感じて」

利用者に支えられ、利用者を支え、介護できる喜びを感じあえるケアのあり方を語り合いましょう。グループホーム、ユニット(グループ)ケアなど形は違っても「自己実現」を支援する目的は同じはずです。  
自分のケアを見直してみませんか?

#### 第4分科会 <養護・軽費分野>

テーマ 「新たな役割を求めて～養護、経費、ケアハウス」

養護・軽費・ケアハウスのあり方、存在が今一ハツキリしない点がある。これからどのような役割を担っていくのか、今一度、存在価値を見直してみよう。

#### 第5分科会 <在宅サービス分野>

テーマ 「地域で安心して暮らすために」

現状の在宅サービスで本当に地域で信頼されるのだろうか。今、地域が求めるものは「質の良さ」と「切れ目のないサービスの提供」。このニーズに応えてこそ、地域に信頼される三ツ星となる。

#### 第6分科会 <リスクマネージメント分野>

テーマ 「意識と知識で危機回避」

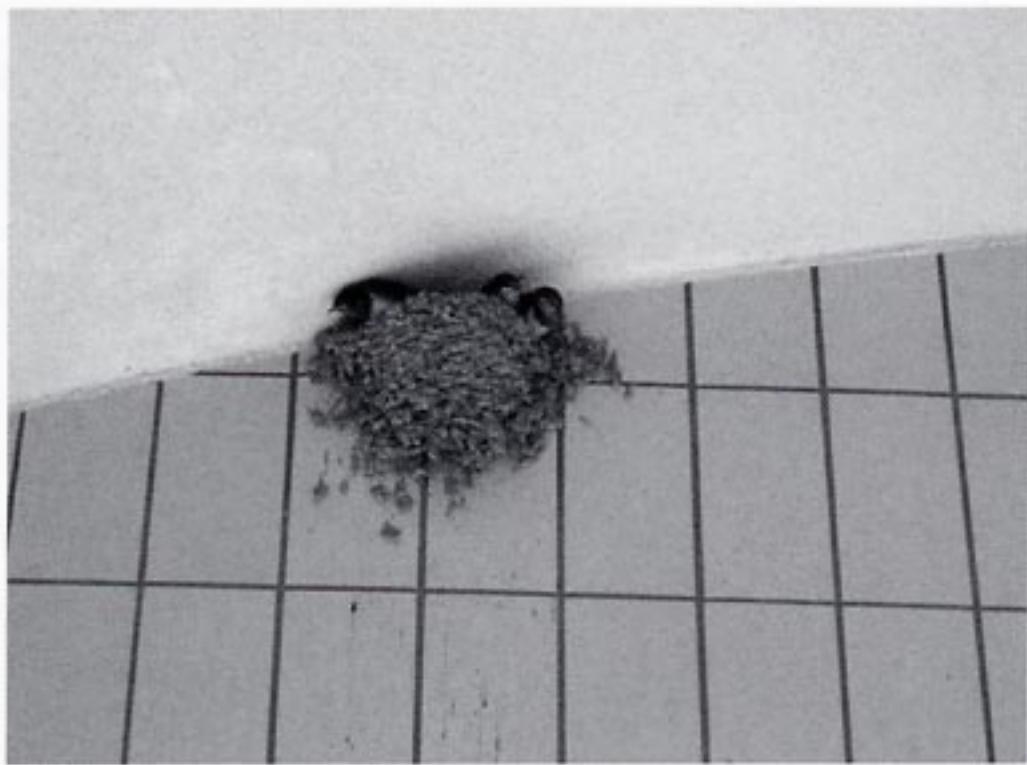
ノロウイルスなどの感染症、介護事故などを防ぎ、身体拘束を廃止し、利用者に安全と安心を保障して尊厳を保つためには、どのように取り組めば良いのだろうか。  
職員の共通認識、リスクマネージメント対応はどうすれば良いのだろうか。

——開催要項は、6月中に各施設に送付いたします。——

## ●施設のユニーク行事

養護老人ホーム光音寮

### 「燕の巣作り」



当施設に燕が巣を作り始めてから数年が立ち、もはや恒例行事となっています。正面玄関の軒先に巣を作る為、糞害があります。「頭上注意」の看板を立てておくとかえつて皆が注目してくれます。

梅雨になると雛がかえり、可愛らしい顔を覗かせるようになります。燕が巣を作る家には幸運が訪れると言いますが、利用者や職員の心を和ませてくれるのも幸運の一つではないかと思われます。

### 「芋ほり」



当施設の空きスペースを活用してサツマイモを栽培しています。過去に色々な作物を栽培しましたが、その中でもサツマイモが一番好評で、しかも一番手間の掛からない一石二鳥の作物でした。さらに芋ほりは、探すことの楽しさ、大物が採れた時の喜びが味わえ、運動になります。畑がなくてもプランターで栽培できますので、お勧めです。

### 施設名称の由来と想い

特別養護老人ホーム 紫雲の園 施設長 牧野延幸

紫雲の園を運営する社会福祉法人三宝会は、旧浅羽町内の曹洞宗の寺院がルンビニ保育園を認可保育所とするために設立されたところに端を発します。法人の名称三宝会の「三宝」は「仏法僧」を指し、仏教では最も尊いものとされています。保育のなかで「仏」は生命を慈しむ明るい心、「法」の内からは善悪を判断して進む正しい心、「僧」は他と協調できる和の心を求めて行こうと置き換えて目標としているものです。

昭和五十七年六月、高齢化が進むなか特別養護老人ホーム「紫雲の園（定員五十名）」が三宝会により袋井浅羽の地に開設されました。むらさきの雲は仏教用語で仏が来迎すると乗ってくるという、めでたいことの起ころしるとして縁起のよい雲とされています。

四季の自然に恵まれた日本の各地では折々の、そして時間によつて様々な景色に出会うことができまます。袋井浅羽の地は太平洋の海と小笠の山に囲まれており「紫雲」に遭遇するチャンスが多い?かも知れません。

紫雲の園は開設から二十六年が経過し(その分、施設の狭さや老朽化

が目立ちますが)、「入所者」への生活援助も福祉として実践してきた内容が、「利用者」の皆様への潤いのある介護サービスの追求へと引き継がれました。利用者の皆様の状態や生活の様子をみても、おひとりおひとりにかかる介護の時間が多くの課題のなかで地域での「医療」という連携も重要なテーマとなつて来ました。社会構造が複雑、変化するなかで社会福祉法人の運営においても大変厳しい時代を迎えようとしています。

紫雲の園の利用者の皆様やその家族から、また、地域の皆様からも「笑顔」の反応がいただけるようになります。

紫雲の園の利用者の皆様やその家族から、また、地域の皆様からも「笑顔」の反応がいただけるようになります。三宝会がささやかでも地域社会に貢献できるように大慈愛心の心を持つて和顔といいます。



## ノロウイルスの脅威

特別養護老人ホームかけがわ苑

施設長 溝口宣弘

平成二十年の年明け早々、施設内ではノロウイルスによる集団感染が発生した。私がこの施設に勤めて二十年余になるが、初めての体験である。

聞きしに勝る勢いとはまさにこのことか、入居者が参集する食堂で、居室で、廊下で、施設内の至る所で次々に発生する嘔吐の連続。

認知症状の方は、自らの吐物を認識できないためか、嘔吐しながらもそのまま食事を摂食し続ける。

傍らの利用者は、片付けようとする気持ちからなのか、素手で捏ねてしまふ。汚染された車椅子での施設内徘徊。これらはまさに感染拡大の非常事態の中、私が食事介助に携わった際の光景である。

介護職員の報告には、下痢による水溶便に汚染されたベッドシーツの交換に追われた、漬け込み消毒用に用意したボリバケツが不足し、洗濯室はビニール袋に密封されたタオルケットやシーツ類の汚染物が溢れた云々。職員も皆が健康体ではない。前日勤務した職員が翌日には発症。

職員の急な発症に交代夜勤職員の確保もままならない。日中の職員体制も



然り。職種の別なく出勤者総動員で、その日その時を乗り切るしかない。感染者への対応と感染拡大防止のための対策、職員体制の確保に迫られる毎日に、この状態はいつ終息するのかと不安だけがよぎる。

この冬、私と同じような体験をした施設長もいらっしゃると思う。

閉鎖的な空間で瞬時に拡大する感染症の恐怖に対し、なすべき術が見つからない。場当たり的な対応しかできなかつた自らの指揮統率力のなさ、施設の実態に即した感染症リスク管理対策を早急に作り上げなくてはならないと猛省した。

## 老施協新体制決まる

三月十九日開催の定例総会において、任期満了に伴う役員改選の結果、次の皆様方にお願いすることになりました。  
仲亀前会長の退任に伴う会長には、新理事の互選により石川理事を選出いたしました。

なお、任期は二十年四月一日から二十二年三月三十日までの二年間です。

理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	副 会 長	副 会 長	役 職 名	部 会	氏 名	施 設 名	地 区
特 養	特 養	養 護	養 護	在 宅	在 宅	輕 費	特 養	特 養	特 養	特 養	特 養	栗野裕治	木下朝子	石川三義	あしたかホーム	中 部
池田達哉	松本琢也	秋山 通	岡崎光治	蒲原尚美	佐藤昭南	齊藤文彦	河野頼子	伸亀秀樹	大塚芳正	川島優幸	若林民子	相原幸一	三島市立養護	玉沢昭寿園	有馬良建	中 部
こもれび	大井川睦園	藤枝市立円月荘	静岡老人ホーム	セイカービスセンター	セイカービスセンター	アサイービスセンター	沼津グリーンビル	シャローム富士川	すどの杜	みくらの里	老人ホーム福寿荘	小山町立養護	八木靖章	玉田直文	ラボーレ駿河	中 部
中 部	中 部	中 部	中 部	中 部	東 部	東 部	東 部	東 部	東 部	東 部	東 部	東 部	東 部	東 部	東 部	中 部

監 事	監 事	常務理事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	理 事	役 職 名	部 会	氏 名	施 設 名	地 区
特 養	特 養		在 宅	在 宅	輕 費	特 養	特 養	特 養	特 養	特 養	特 養	特 養	特 養	在 宅	輕 費	有馬良建	サシライフらくじゅ	中 部	
鈴木政亮	渡辺 瞳	寺尾正大	北野智照	河合壽美	和田正光	岡部忠雄	青野容幸	中津川章	月花光子	種岡養一	小澤 優	峰野政博	原田春彦	九 重 荘	デイサービス高草	ターカリタス21	中 部	中 部	
みどりの園	岩 本 園	老施協事務局	ピースセンター	あらいデイサー	さやの家デイサー	ささきの郷	ケアハウスか	第二砂丘寮	西 島 寮	豊田ゆうあいの里	グリーンヒルズ東山	奥山老人ホーム	海野 保	デイサービス高草	ラボーレ駿河	中 部	中 部	中 部	
中 部	東 部		西 部	西 部	西 部	西 部	西 部	西 部	西 部	西 部	西 部	西 部	西 部	西 部	役 職 名	部 会	氏 名	施 設 名	地 区

# 活動報告

業報告並びに収支決算、二十年度事業計画並びに収支予算、定例総会等について協議しました。

## 老施協

★ 総会 二十年三月十九日、もくせい会館において、役員の選出、職員の給与規定の一部改正、二十年度事業計画並びに収支予算等について審議しました。

★ 総会 二十年五月二十七日、労政会館において、十九年度事業報告並びに収支決算について審議しました。

★ 理事会 二〇年三月四日、ペガサートにおいて、役員改選、職員給与規定の改正、交通費の支給及び定例総会の運営等について協議しました。

★ 理事会 二十年四月十五日、県総合社会福祉会館において、役員の改選、交通費の支給及び十九年度事業報告並びに収支決算、二十年度事業計画並びに収支予算、定例総会等について協議しました。

## 【養護部会】

★ 二十年三月四日、クーポール会館において施設長研修会を開催し、二十年度の各施設の事業計画等について話し合いました。

★ 監事會 二十年四月十五日、県総合社会福祉会館において、十九年度事業報告並びに収支決算について監査を実施しました。

## 【21世紀委員会】

★ 平成二十年二月二十三日、もくせい会館において「明日の仕事を元気にする大作戦」を開催しました。第一部ではワークショップ、第二部では講演会を実施し、あわせて百六名が参加しました。

★ 平成二十年五月八日、県総合社会福祉会館において開催し、平成二十年度事業計画並びに収支予算について審議しました。

★ 理事会 二十年四月二十一日、県総合社会福祉会館において、役員の改選、交通費の支給及び十九年度事

## 【企画経営委員会】

★ 二十年二月十五日、静岡県総合社

会福祉会館において平成十九年度第三回委員会を開催し、任期満了に伴う役員の改選、事務局職員の役職及び職務等について協議しました。

## 【広報委員会】

★ 二十年五月二十日、県総合社会福祉会館において開催し、平成二十年度事業計画等について協議しました。

## 【関プロ実行委員会】

★ 二十年二月七日、県総合社会福祉会館において、第四回実行委員会を開催し、収支予算案、大会テーマ、分科会テーマ等について協議しました。

★ 二十年三月六日、静岡市民文化会

館において、第五回実行委員会を開催し、収支予算案、大会テーマ、分科会テーマ等にそれぞれ小委員会毎に協議しました。

★ 二十年四月二十五日、グランシップにおいて、第六回実行委員会を開催し、会場視察後、スケジュール、準備内容、全体会テーマ、分科会テーマ等にそれぞれ小委員会毎に協議しました。

● 当たり前だが、幼少の頃、周りの大人はとても大きな存在だった。自分が大人と呼ばれる年齢となって、随分経つ。今の自分はあの頃の大人の足元にも及ばない気がする。それよりも今の子供達から見て、大人はどう映っているのだろうか。大きな存在となっているのだろう

**編集後記**

● 「無い袖は振れぬ」ことわざは自然的です。しかし国は多くの収入をカットし、逆に様々な事業を行えと指図します。これは正に無い袖を振つていい状態です。

淘汰、いや人為淘汰してしまってしょう。ガソリン税暫定税率を一般財源化して医療・福祉にまわして安心して暮らせる社会を構築してもらいたいものです。

(木全)　　(古井)

● いまの社会では『環境との共生』と言われていますが、これは日頃の生活の中に溶け込んでいかなければならぬことであり、そうでなければならないことでもあります。「言うは易し、行うは難し」ではあります。が、結果だけを求めず品格・技量研鑽に努めて行かなればならないと思ひます。

(武田)